

近畿圏広域地方計画協議会 第13回幹事会 議事概要

日時：平成27年8月28日（金）10：30～12：00

場所：国民会館 12階 中ホール

出席者：（配付資料）出席者名簿のとおり

1. 開会

2. 挨拶：高橋副局長挨拶

3. 議事（小林幹事長挨拶）

（1）関西広域地方計画中間整理（素案）について、事務局より説明。

意見の概要は、以下のとおり

（奈良県）

- ・ リニア中央新幹線について、全国計画や国土のグランドデザイン2050では「早期整備」「整備推進」という文言が記載されているが、今回中間整理（素案）の中では、そういう文言は特に記載されていないように見受けられる。例えば「東京・大阪間の早期全線開業」とか、それが難しいということであれば、国土形成計画の全国計画の中にも記載されているように「リニア中央新幹線の早期整備」というような文言をどこかに盛り込んで頂きたい。
- ・ 地域活性化に資する土地利用の促進という考え方について、前回、第3回の協議会の中で奈良県の方から発言をさせていただいた部分であるが、例えば農地転用とか、地域活性化に資する土地利用について、今回、過疎化の中で地域の実情に応じたまちづくりの観点から、地域活性化に資する土地利用の促進という文言を入れていただいているが、過疎の地域だけではなく、特に平野部とか、奈良県は特に企業立地とか工場数が少ないということもあるので、例えば「必要な農地総量を確保しつつ、エリアを限定して農地転用を進めるなど地域の活性化に資する土地利用について、制度の改正等によりこれを支援する」というようなニュアンスのことを盛り込んで頂きたい。そうすることで耕作放棄地や未利用地の解消策にもなるだろうと考えている。
- ・ 政府関係機関の地方移転について、全国計画の中にも記載されていると思うが、国の方でこれに関する提案募集がなされており、奈良県も手を挙げさせていただこうと思っている。民間の関係に関する記述はあるが、政府関係機関の地方移転についても盛り込まれてはどうか。
- ・ 本県では、古代歴史文化の研究や平城宮跡や飛鳥・藤原などの研究調査を行っているが、奈良文化財研究所等の国の機関が、地方公共団体とより連携・協働することによって、その研究が深まって価値を広く発信することができるようになってくると思う。歴史文化というのは関西の強みでもあるので、歴史文化をより発展させるためにも、国の関係機関と地方公共団体との連携・協働の推進について記載頂きたい。

(関西経済連合会)

- ・計画の名称に「関西広域地方計画」と明記いただいたことは、「関西」というブランドの統一的発信に向けた大きな前進であると思う。本当にありがとうございます。
- ・スーパーメガリージョンについて、首都圏のみに依存しない新たな成長エンジンの創出という主旨があるので、それをより明確にするためにも、これまでどおり「複眼型」という言葉をつけて頂きたい。
- ・リニア中央新幹線と北陸新幹線について、地方計画に関西としての危機感や戦略を強く出すべきであり、関西の成長戦略の大きな柱の一つであることから、もう少しはっきりと思いを書ければと思う。リニアにつきましては「同時開業が不可欠」とくらい書いてもいいのではないかと。北陸新幹線については、長野～金沢間の開業によって関西の危機感は深まっているので、「国土のリダンダンシー確保や関西の連携強化のために、大阪までの早期開通が必要である」とくらいまで記載するのがいい。
- ・全国計画にあまり記載していないものをどこまで書くかというのは、いろいろ議論があると思うが、広域地方計画を策定する意義をはっきりと見出すためにも、少し突っ込んだ記載をした方がいい。
- ・大都市圏政策や企業本社の地方移転促進に向けた税制優遇措置について、東京23区に本社がある法人が本社機能を地方に移転させた場合に、税制優遇措置が受けられるようになっているが、関西圏・中部圏の都市部は除外地域として大都市圏法制の規制都市区域が設定されたことで、その優遇措置を受けられないことになっている。これは、複眼型スーパーメガリージョン形成の観点から非常に問題であり、今回の税制優遇措置のように、首都圏、中部圏、関西圏をひとくくりにとらえるべきではないのではないかと。東京と並ぶ成長エンジンになるためにも、「関西圏の都市部を税制優遇措置の規制対象外とする施策について再検討が必要である」と記載されてはどうか。加えて都市部への人口の集中抑制に主眼をおいた近畿圏整備法をはじめとする大都市圏政策は、その転換期を迎えている、今後は集中抑制的な施策を改めて、発展を促す方向へと転換するためにも、大都市圏法制につきましては、国土形成計画法との関係、一元化とまでは言いませんけれども、それを再考する時期にきているのではないかと。
- ・危機管理について、危機管理における指令機能等につきましては、関経連としましては、指令塔機能を伴う拠点を新たに関西に設け、首都圏の復旧、復興や全国の指揮命令系統が可能となるような体制構築を検討する必要があると、従来から提言をしており、関西は防災指令機能の代表拠点としての役割を目指すとの内容をどこかに記載して頂きたい。

(関西経済同友会)

- ・3大都市圏を一体化させるスーパーメガリージョン形成にとって重要なリニア中央新幹線の全線同時開業について、近畿圏広域地方計画にしっかりと書いていただきたいと再度お願いしたい。

- ・資料１でご説明をされていた中で、概要の右上肩に外国人旅行者の急激な増加というところがあるが、この計画が今後１０年先を見越した計画であるということからいうと、２か所あるが、素案の２２ページの④の真ん中あたりに、国内外からの旅行者の受入環境を整備するとともにという記載があるが、受入環境よりももう少し踏み込んで、安全安心の環境というような言葉を入れて頂きたい。また、３３ページ、日常生活の安全安心ということが書いてあり、⑧に我が国が防犯面でも安心して生活ができると世界的な信頼感を高めるべく、ということで、防犯面という切り口から文章がはじまっているが、最後のところに世界から訪れる方々に実感していただける取組みを進め、安全な関西を世界に発信する、これも防犯面という形なので、これも日常生活の安全安心というような言葉を入れて頂きたい。

(大阪市)

- ・リニア中央新幹線と北陸新幹線については、何回も議論しているところだが、近畿圏の広域地方計画は何か、国土形成計画の解説版を作っても仕方がない、近畿圏の危機意識を強く持っているのがリニア中央新幹線であり北陸新幹線である。ミッシングリンクが本当にできてしまっている、できてしまう可能性があるということを、国土の構造を変える大きな話なので、近畿から声を上げていかないと何にも進まないという危機意識から位置付けを明確にして頂きたい。

(和歌山県)

- ・４月の協議会において、知事が国土の双眼構造ということで意見をさせて頂いた。前回までは「複眼型スーパーメガリージョン」という言葉が繰り返し記載されていたが、今回の中間整理を見ると「複眼型の巨大都市圏域の一翼」として記載されているだけで、後退しているという印象を受ける。関西の役割として国土双眼構想を実現していくという決意をはっきりと書いて頂きたい。
- ・道路ネットワークについて、関西圏と関東圏の道路ネットワークを比べるときに環状道路の比較がなされているが、今回の資料１の図を見ますと、都市圏の状況のところは環状道路の比較が出ているが、地方都市のところには道路ネットワークの整備が遅れているという文章も図も出ていないので、ご配慮頂きたい。
- ・リニア中央新幹線について、１８年遅れることも書かれていない、現状認識として関西として、きっちり１８年の遅れがある、早期整備が必要なのだ、それを課題として認識していないことになるので、きちんと書いて頂きたい。

(大阪市)

- ・リニア中央新幹線について、国土交通省の考え方は百も承知でわれわれは言っており、それがあってこの近畿地方計画をどう作るのかが議論されている、今の既定の計画の枠組みで作るのであればあまり意味がなく、計画を超えて、計画を変えろとまでは言わないが、もう少し近畿の危機感を組み入れた表現で、今ある計画がシフトしていくような方向性がないかをお願いしている。

(兵庫県)

- ・主要プロジェクトについて、都市のところにニュータウンの再生について書いてない、また、計画本体の方にもニュータウンの再生の事を書いておくべきではないか、再検討して頂きたい。

(堺市)

- ・リニア中央新幹線・北陸新幹線については、できるだけ前向きに、危機感を表せるような表現をとって頂きたい。
- ・資料2の中間整理の19ページの6のところで関西国際空港の機能強化・アクセス強化について、鉄道によるアクセス強化については「鉄道ネットワークとして都心部や観光地等への空港アクセスの強化を図る」という記載にとどまっており、関西国際空港につきましては、アジアだけでなく世界のゲートウェイとして関空が成長するためには、大阪の都心部からの高速アクセスは欠かせない、先般の有識者会議でも藤井聡先生の方からも「関空新幹線に関する調査」を記載するだけでも、実現に向けて一歩前進につながるのではないかと趣旨の発言があったと聞いている、私どもの市長も以前から関空リニアの必要性を主張しており「高速鉄道の整備も視野に空港アクセスの強化を図る」といったような記載ができないか検討いただけないか。
- ・資料3のプロジェクト骨子素案の6ページ、まる3歴史・文化・おもてなしプロジェクトの概要の記載について、特に文化に関する記述が少ないのではないかと。堺市では、百舌鳥古市古墳群世界遺産登録の国内推薦はかないませんでした、来年の国内推薦、再来年の世界遺産登録を何としても勝ち取りたい、これが実現すれば関西では2004年以来の世界文化遺産登録となり、このインパクトというものは国内外に大きなものとなる、資料1の中間整理案では、関西の特徴として最初に「我が国を代表する歴史文化資産の集中」について記載があり、前回の計画では「文化・首都圏プロジェクト」が最初のプロジェクトとして位置づけられていた、そういう意味からも、関西の歴史文化について、重要性、歴史的価値を示すためにも、充実した記載をお願いしたい。

(関西経済同友会)

- ・先般、新聞で関西広域連合の研究会において、関西の文化・観光の報告書を出されているのを拝見したが、内容をよく把握していないので、研究会の報告書で今回の広域計画に盛り込めそうなことがあれば教えて頂きたい。

(関西広域連合)

- ・報告書について、委員会でさまざまな議論をしており、現時で最終報告書を出せる状況ではなく、近日中に発表させて頂く予定である。内容についてはソフト施策が大量に盛り込まれているので、参考にしたい。

(2) プロジェクト検討参考資料(プロジェクト骨子(素案))について、事務局より説明

意見の概要は、以下のとおり

(兵庫県)

- ・プロジェクトのパワーポイントあるいは本編には「集落を切り捨てない」「守りますよ」と表現されているが、資料３のプロジェクト骨子では、それが比較的弱い、読み取りにくい表現なので、「集落を支える」という表現を検討して頂きたい。

4. その他

関西広域地方計画策定スケジュールについて、事務局より説明

意見の概要は、以下のとおり

(近畿市長会)

- ・第４回協議会の後に、市町村計画提案募集が実施されるということですが、近畿市長会各市においては、人口減少、地方創生、巨大地震、集中豪雨の対応をはじめ、数多くの課題を抱えている状況であり、４月の協議会においても会長から、各市の意見が取り入れられて計画に反映されることが重要であるという意見をさせていただいており、できる限り多くの市町村から計画提案が提出される環境づくりが重要なので、各市町村への事前説明の徹底など提案募集の内容が十分に伝わるように提案募集の進め方につきましてご配慮頂きたい。

5. 閉会